

第3回野洲市総合計画審議会 環境・都市計画・都市基盤整備部会 議事録要旨

●日 時

令和2年7月2日（木） 14:00～16:00

●場 所

野洲市役所本館2階 庁議室

●出席委員（委員区分毎・50音順）

1号委員：新川 達郎委員

2号委員：浅田 邦保委員、北村 真治委員、野口 明委員、林 かずみ委員、田中 康嗣委員、
山本 一郎委員

3号委員：井上 輝子委員

●事務局

布施都市建設部次長、西村環境経済部次長

川尻政策調整部次長、玉川企画調整課課長、岡田企画調整課課長補佐、垂企画調整課専門員、
亀井企画調整課主事

●傍聴者

なし

1 開会

次長あいさつ

2 報告事項

今年度のスケジュールについて

—事務局より資料説明—

3 審議事項

第2次野洲市総合計画 基本計画（素案）について

—事務局より資料説明—

4-1 均衡ある土地利用の推進

◇委員からの主な意見・質問

【委員】施策目標の「〇〇が実現しています」の書き方は非常にいいと思う。ただ、掲げてある目標は5年後よりもっと先の目標に感じるので、5年後の目標としてはもう少し具体的な目標の方がいいのではないか。

【委員】主な取組についてどの個別計画に記載されているのかが分かるような整理になるといいと思う。

→【事務局】他の部会との兼ね合いもあるので、意見として一旦受けさせていただく。

【委員】指標として掲げてある1ha当たり58.1人のイメージがよく分からない。イメージが沸かないような指標でいいのか。また、取組方針ごとに指標があってもいいのではないか。

→【事務局】他の部会でも同様の意見をいただいている部会もあり、意見として一旦受けさせてい

ただ、指標について具体的な提案をいただけるとありがたい。

【委員】取組方針③の「良好な住宅」とはどのような住宅か。将来多くの人に来てもらえるような具体的なイメージがあるといい。

→【事務局】表現について提案をいただけるとありがたい。

【委員】市街化区域の拡大で人口が増えることにより、保育園・幼稚園・学校・公園等必要なものが増えてくるのではないかと心配である。

→【事務局】市街化区域の拡大により、必要な社会インフラは当然出てくる。現状の把握や今後の整備等に十分配慮しながら進めていく。

→【部会長】単に市街化区域を増やしていくのではなく、それを支える基盤整備も含め計画的に都市機能を形成していくということが重要である。

【委員】新駅設置に関しては、先にまちを形成することが必要ではないか。野洲駅を利用される区域でのまちづくりが広がり、それがどんどん延びていくイメージである。まちづくりが広がれば新駅の構想も具現化していくのではないか。

→【委員】新駅については市の中ではどうなっているのか。

→【事務局】新駅の構想は以前からあり、新駅を作ることが目的ではなく、それを一つのきっかけとして周辺の土地利用を転換しまちづくりを進めていくという計画である。優良農地であり土地利用転換が難しいことと、排水の効率が悪く排水対策にかなり費用がかかることが課題であり、なかなか解決は難しいが、新駅の構想自体は継続している。

→【委員】構想が継続して存在しているのなら、少しでも近づくようにしていく必要がある。

【委員】野洲駅南口は手狭になっており、北口に住宅や公園整備等を行い、北口側を活用することはできないか。

→【事務局】市街化区域の拡大候補地については、まちづくりビジョンの中で示しており、優先的に進めている国道8号バイパスや大津湖南幹線の沿線を考えている。他の地域についても、近々の予定ではないが検討していきたい。

→【部会長】市街化区域の利用密度が低いところもあり、市としてどうしていくのかを考える必要もある。

【委員】野洲市の中でも地域差があるので、細かい部分については個別計画に書かれるとは思いますが、現状・課題の押さえ方が少し荒いように感じる。

4-2 自然環境・美しい景観の保全

◇委員からの主な意見・質問

【委員】公園がなくても、豊かな自然があれば子どもたちは遊べる。人が造った公園の面積よりも豊かな自然がたくさんあることを表す指標は設定できないか。

→【委員】家の近くの川で蛍が見られる。5年後もこの蛍が見たいと思うが、そういうものはどうか。

【委員】課題として担い手の確保があがっているが、70歳になっても働かないといけない社会であり、確保が難しい。また、山や森に入る活動は危険な面もあり、気になっていても活動できない現状である。

【委員】次から次へと新しいことをするのではなく、整備されていない雑草だらけの公園や遊具の古い

公園、ボランティアだけで整備している公園等をどうして引き継いでいくのかを考え、今あるものをまず充実させることを考えるべきではないか。

【委員】コミュニティ活動も役員だけが参加している状態であり、ボランティアで参加される方は少ないのではないかと懸念している。次代への引き継ぎをどうしていくのかは野洲だけではなく全国的な問題である。文章ではいいことが書いてあるが、実際に理解してもらい、集まってもらうかが課題である。

→【事務局】みどりの基本計画の審議会では、新たな公園整備と共に、今の地域の公園のあり方や維持管理の面も含めて、持続可能な公園の整備について議論しているところである。

→【事務局】環境保全活動については、まずは活動を知ってもらうこと、次に学習会やイベントに参加してもらい興味を持ってもらうこと、その中から次の参画者を見つけていくということで、地道ではあるがそのように担い手の確保に取り組んでいるところである。

【委員】指標として掲げられている都市公園面積の意味が分からない。

→【事務局】単位が間違っていた。人/m²ではなくm²/人に訂正していただきたい。

【委員】長い目で見ると担い手は人間に限らないと思う。ロボットや他にも便利な道具が出てくるのではないかと懸念している。先を見越して、そういうところを具体化してもらえたらと思う。

【部会長】人口減少や高齢者も地域活動に参加しにくい状況ではあるが、ICTをはじめとする新しい技術の導入や団体の活動の仕方の工夫等ができるといいというご意見であった。担い手の確保については取組方針に入っておらず、もう少し具体的に書きこめるか検討いただきたい。

4-3 生活環境の保全と上下水道サービスの安定供給

◇委員からの主な意見・質問

【委員】7月1日からレジ袋が有料になったことに伴い、そのまま持ち帰り道路にポイ捨てされるごみが増えるのではないかと懸念している。また、燃えるごみ袋の記名がほとんどされていないので自治会では困っている。

→【事務局】ごみ袋の記名については、責任を持ってごみを出してもらうという観点からお願いしているものである。不法投棄については犯罪であるという認識のもと、警察と協力しながら行為者の発見に努めている。今後も監視の目を強め、対応していきたいと考えている。

→【委員】ごみには個人の生活が分かるものがあり、名前を書くというのは難しいのではないかと懸念している。責任を持ってごみを出すことが目的であるのならば、社会が変化している中で検討し直す必要があるのでないかと懸念している。この審議会での議論ではないが、環境課に持ち帰っていただきたい。

【委員】ごみをきちんと分別し、3Rにつなげられるものはつなげていくということが重要である。分別という言葉を入れてもらいたい。

【委員】ごみの排出量を減らすために、具体的にどうすればいいのかを広報等に書いてもらえると思う。食品ロスについて、食べられるものを集めて必要とされている方にあげるような取り組みを野洲市では行っているのか。家で眠っている食材が役に立てばいいと思う。

→【事務局】行政ではなく民間の団体や社協等福祉の関係でされているところがある。管理衛生面や人手の問題もあり、個人からの提供ではなく、企業等から提供を受けておられる。

【委員】大気や騒音についての取組を入れてほしい。例えば騒音では電気自動車化を推進する等考えられるのではないかと懸念している。

【委員】具体的な事業については個別計画の中できっちりと書いてもらいたいのと、それを市民が分か

るようにしてもらいたい。いろいろな計画が野洲市にはあるが、あまり知らないため、どういう取組をしているのかというのを市民に周知する必要があると思う。

【委員】 コロナの関係で生活様式が変わっており、ペーパータオルやマスク等のごみの増加や手洗いに伴う水の使用量の増加等、大きな影響があるのではないかと。

→【事務局】 現状で言うと、家庭系のごみは増えており、事業系のごみは減っている。全体的には少し増えている状況である。

【委員】 商品化できないような地場産野菜を給食に活用する等考えてもらえるといい。

【委員】 食育に役立つような給食方式を考える等、食育の面からも何か総合計画に入れられるといいと思う。

→【事務局】 食育に関する分野が別の部会であるので、ご意見をお伝えさせていただく。

4 その他
特になし

5 閉会